

2008年上期の回顧と 下期の展望

繊維部会

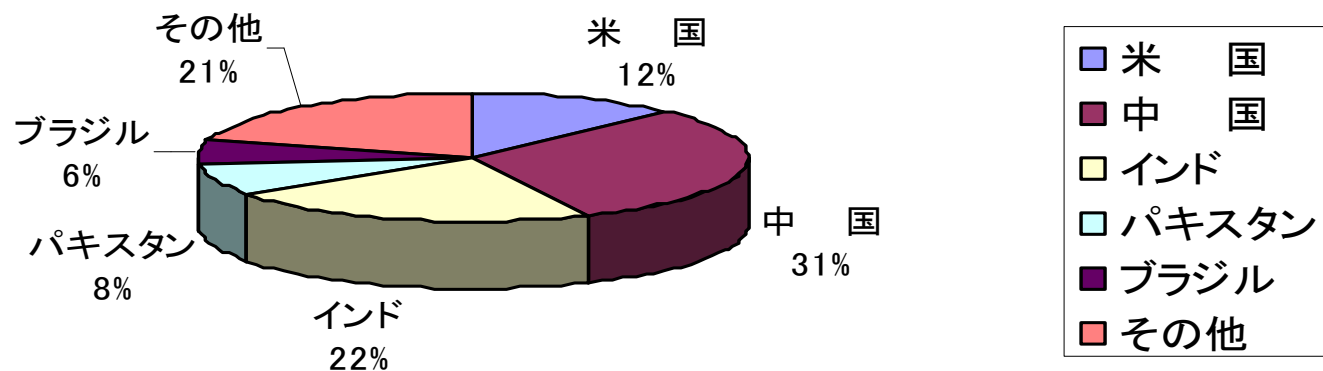


世界の綿花・生産量

■年々増す中国の生産量。(中国、インドで53%)

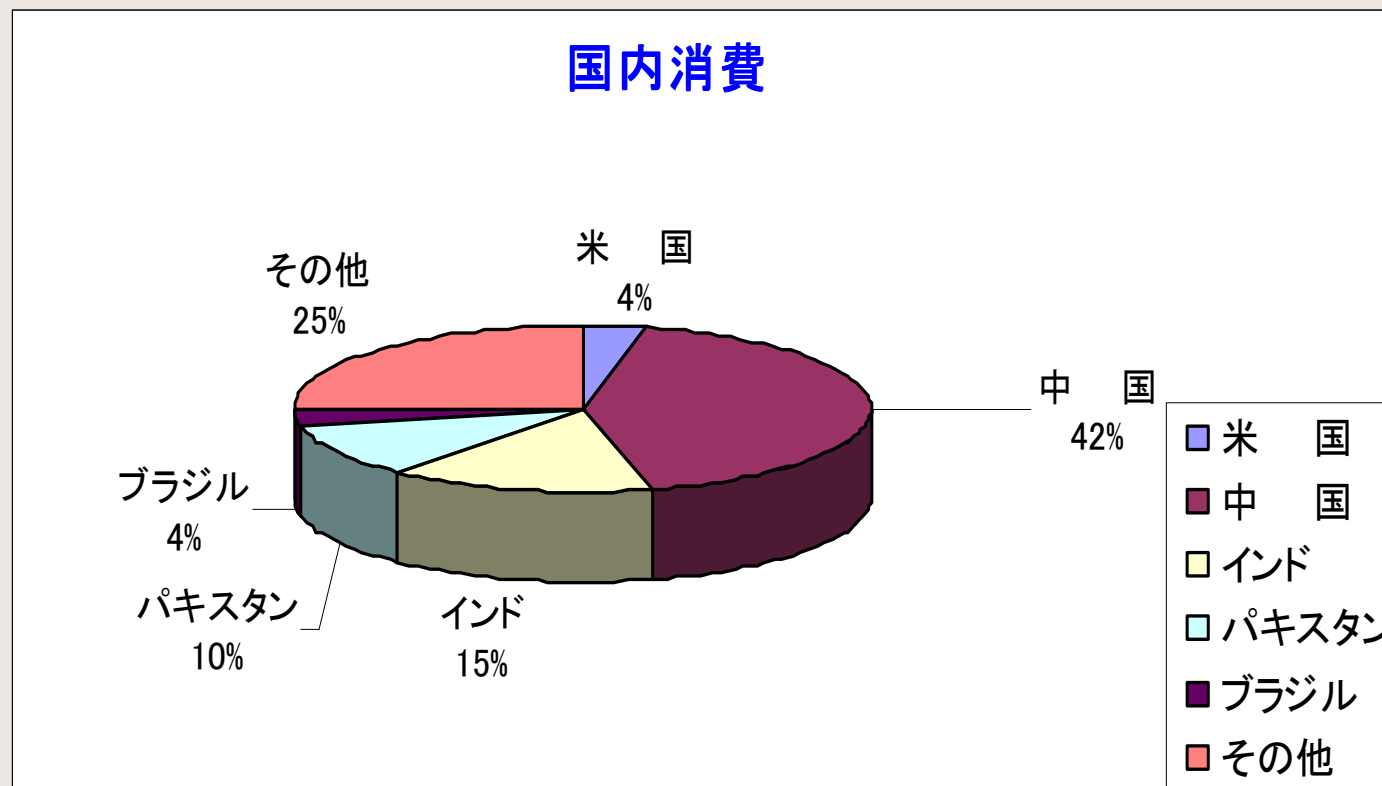
■大幅減産の米国

綿花生産

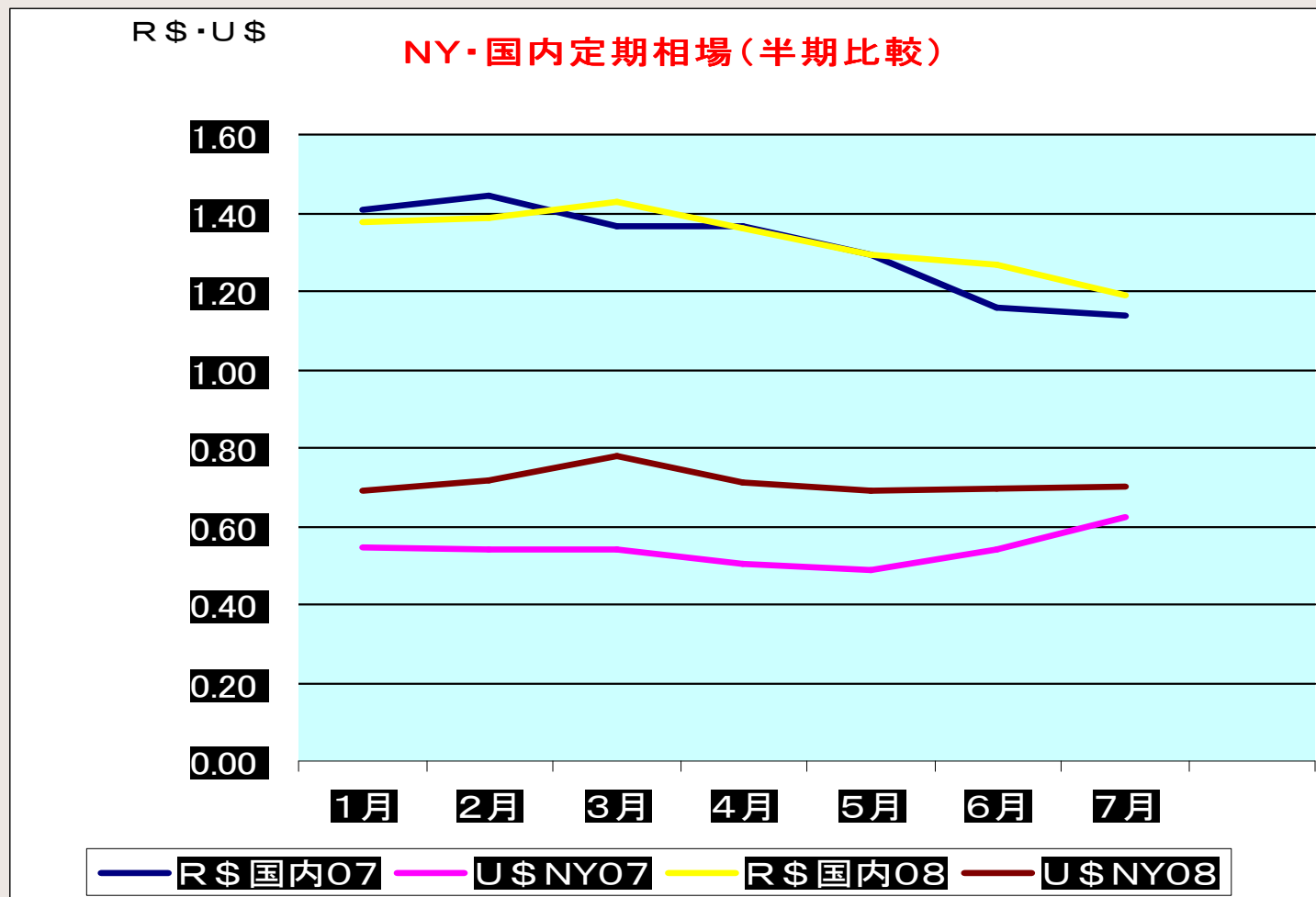


世界の綿花・国内消費

- 年々増す中国の綿花消費
- (中国の消費は前年比約1割増。中国、インド、パキスタンで約7割を占める。)

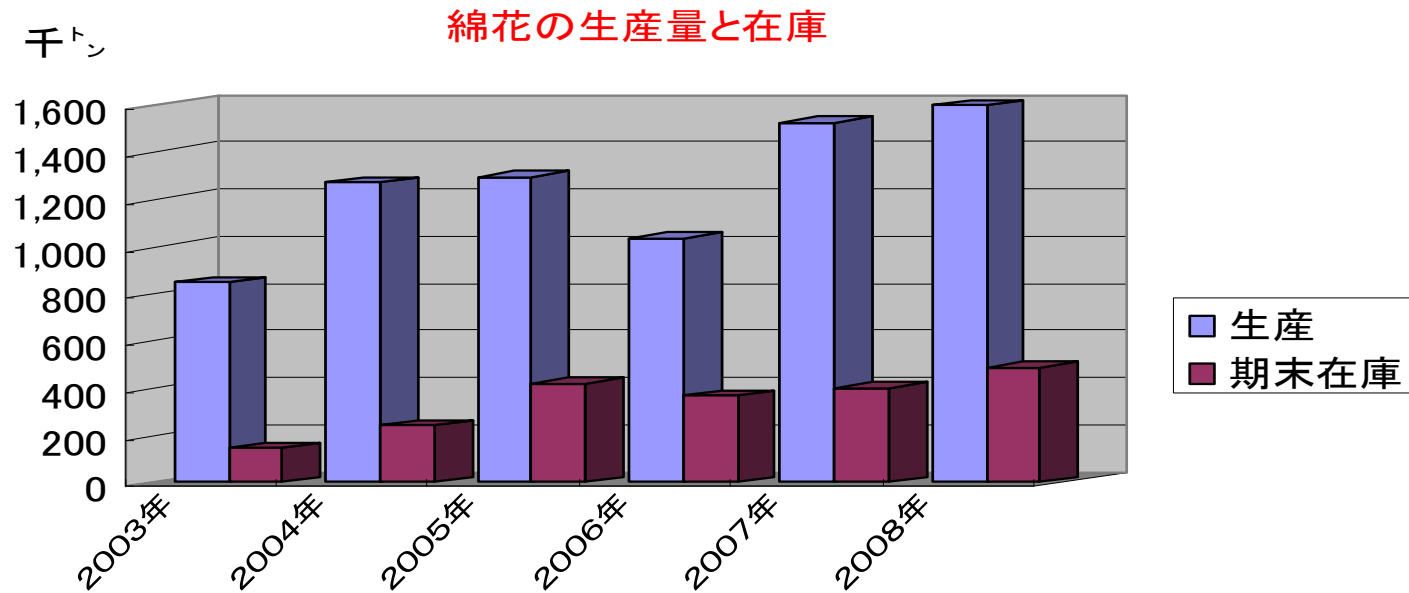


国際、国内綿花相場



国内綿花

拡大する生産と輸出

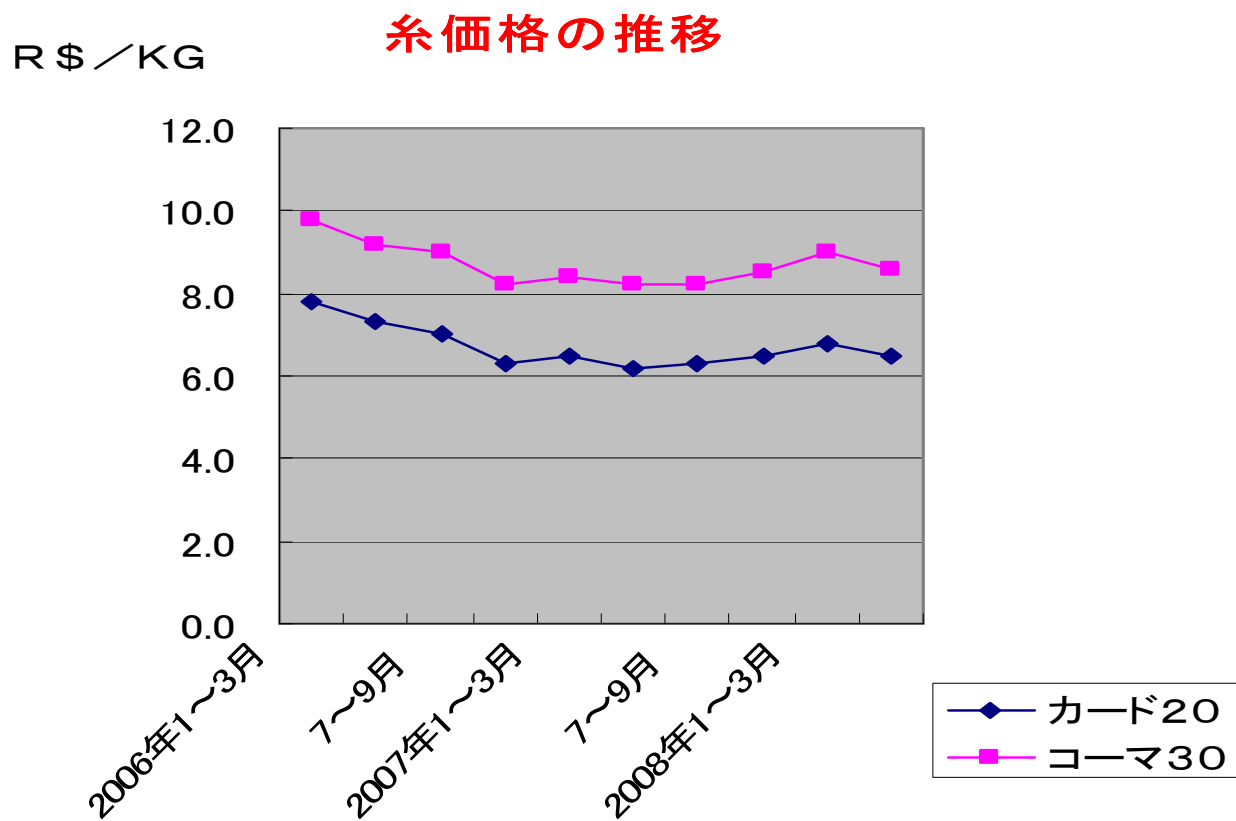


【単位】千トン

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年予測
生産	848	1,273	1,298	1,037	1,524	1,557
輸入	119	115	37	81	97	60
消費	770	850	927	920	1,010	1,050
輸出	175	420	391	304	419	520
期末在庫	145	241	422	297	382	429

国内綿糸

(1～3月は糸値回復、4～6月は輸入綿糸の増加で苦戦)

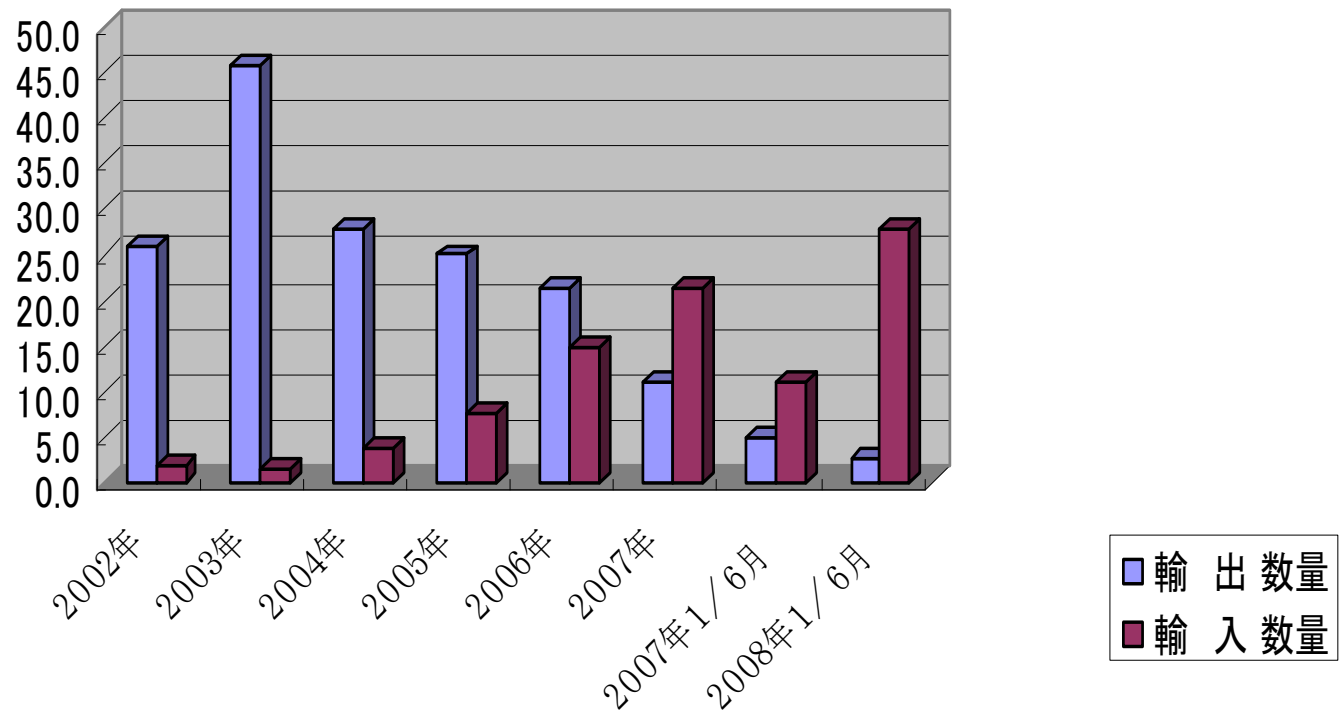


国際綿糸

急増する輸入・激減する輸出。

千トン

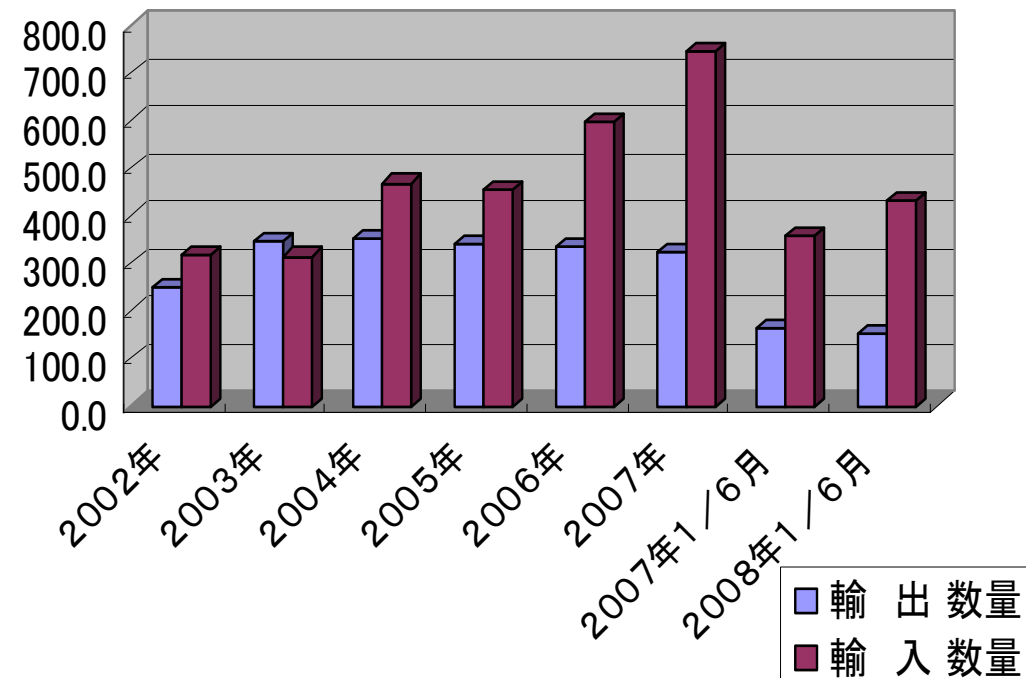
糸の輸出入推移



繊維製品の輸出入

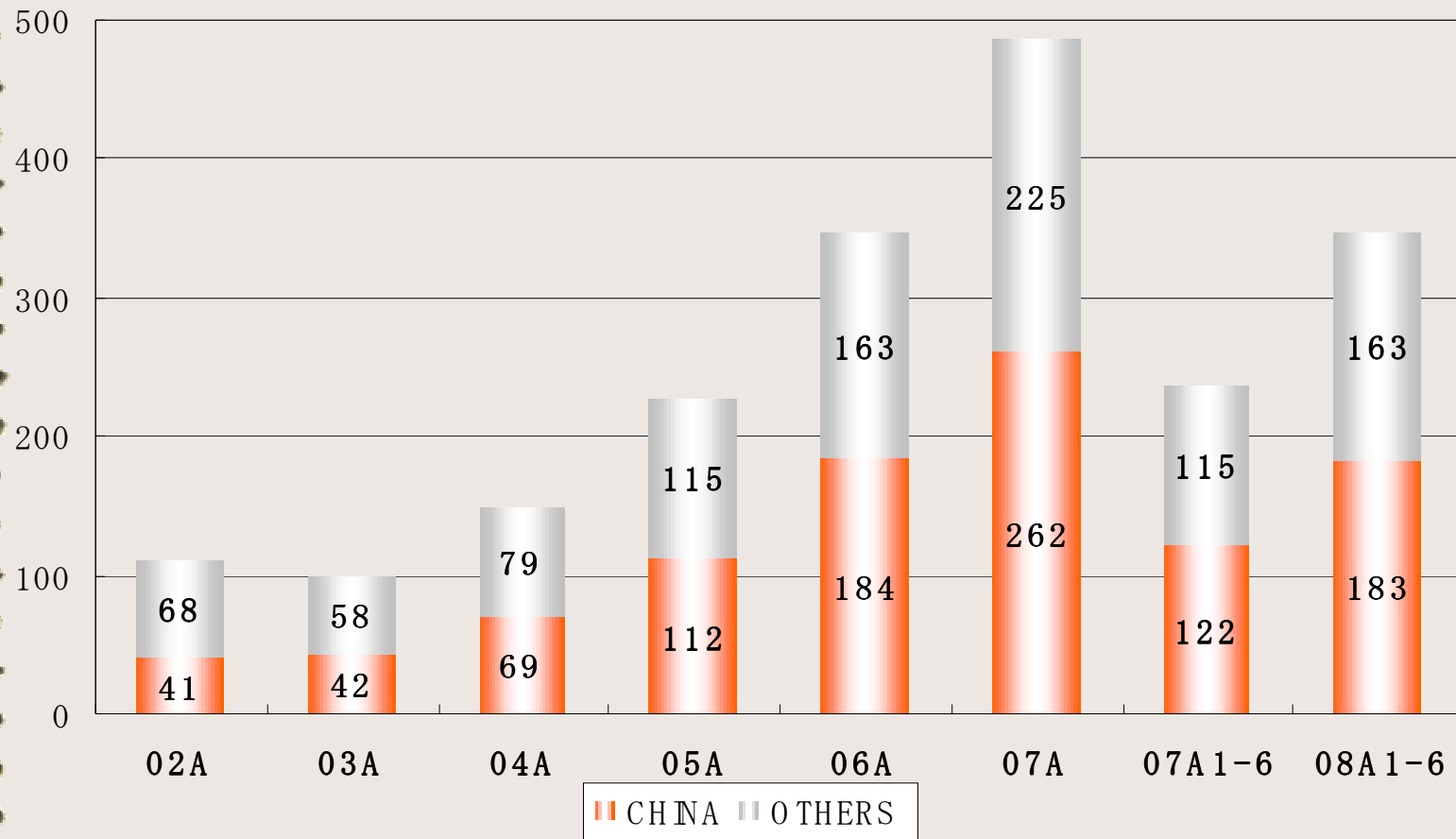
急増する輸入、苦戦する輸出。

千円 繊維製品の輸出入の推移



衣料品の輸入推移(単位:百万US\$)

中国の台頭が著しい。(07A/06A:142%)



合繊（ファイバー／糸）

輸出、減。合繊糸の輸入減

合繊（ファイバー／糸）

		2007年	2007年上半期	2008年上半期
		数量 (ton)	数量 (ton)	数量 (ton)
輸出	ファイバー	38,547	20,476	17,099
	糸	7,234	3,415	3,108
輸入	ファイバー	66,287	35,685	39,461
	糸	226,879	334,152	131,444
生産	ファイバー	NA	83,387	81,926
	糸	NA	83,403	83,549

薄地織物

輸入増。輸入は、合織(婦人、紳士用衣料)が増加。

		2007年	2007年 上半期	2008年 上半期
		数量 (千ton)	数量 (千ton)	数量 (千ton)
輸出	繊維製品全体	856.1	303.9	360.6
	織物	66.9	32.0	25.5
		54.6	25.4	20.5
		11.7	6.3	4.7
輸入	繊維製品全体	913.8	476.5	508.1
	織物	99.6	45.8	61.2
		16.1	7.1	13.4
		82.4	38.2	47.1
輸出入収支		△32.6	△13.8	△35.7
生産	織物	1,362.1		
	薄地	484.3		
		281.2		未発表
		193.8		

薄地織物 121~200g/m²

紳士・婦人服地・小売販売市場

➤ 2008年上期の回顧

冬の寒さの到来で小売・アパレル共に好調。

婦人服地はニットから布帛へ、紳士は天然素材、カジュアル化。

輸入業者の競争激化

➤ 2008年下期の展望

インフレ傾向が気がかりではあるが消費拡大継続を期待。



ファスナー

➤ 2008年上期の回顧

輸入衣料の増加、国内生産衣料の減少でファスナー市場の数量的な縮小傾向は継続。

早めの寒波到来でジャケット、ブーツが好調。

輸入品との競争を避けるため付加価値の高い差別化の衣料の生産が進んでいる。

➤ 2008年下期の展望

輸入衣料との競争激化は続き市場淘汰も進む。

業界全体として市場構造の変化への対応も進んでおり、この下期も昨年以上の販売を期待。

生産量と設備推移(糸)

ほぼ横ばいの紡績設備と微増する生産量。

糸生産量	【単位】千トン					
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
綿	1,052	997	945	1,012	1,059	1,097
その他の天然繊維	43	45	49	45	35	39
合成繊維	192	176	170	191	190	199
その他	9	8	8	9	10	10
計	1,296	1,226	1,173	1,257	1,294	1,345

紡績設備	【単位】台					
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
錘数(千錘)	4,621	4,672	4,645	4,749	4,747	4,781
空紡(千ドラム)	297	296	294	300	309	327
コーマ(台)	6,816	6,902	7,349	7,114	7,242	7,259

生産量と設備推移(織物)

ほぼ横ばいの、織物設備と生産量。

織物生産量	【単位】千トン					
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
綿	744	755	704	798	813	822
その他の天然繊維	47	48	47	46	42	41
合成繊維	412	417	428	469	460	507
計	1,232	1,220	1,180	1,313	1,314	1,370

織機設備	【単位】台					
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
ウォータージェット	365	365	365	365	369	369
エアージェット	6,880	6,954	7,677	8,189	8,524	8,565
自動織機(シャトル)	78,527	74,059	63,246	53,886	40,151	34,887
手織機	842	842	842	842	833	798
クリッパー織機	25,435	25,333	27,968	28,572	28,772	28,346
プロジェクティル織機	5,690	5,707	5,690	5,767	5,842	5,887

生産量と設備推移(メリヤス)

ほぼ横ばいの編機設備と、増加する生産量。

メリヤス生産量	【単位】千トン					
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
綿	343	346	301	305	365	399
その他の天然繊維	3	2	2	3	2	2
合成繊維	145	130	141	146	188	209
計	490	477	444	454	554	610

編機台数	【単位】台					
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
丸編機	8,179	8,421	8,934	9,141	9,153	9,364
横編機	36,431	37,850	38,543	38,563	39,836	39,776
ラッセル	8,029	8,158	8,158	8,172	8,170	8,058

終わりに

- 伯国には豊富な原材料(綿花)と労働力がある。
更に拡大する国内消費に期待したい。

- 問題点(環境)
 - 為替(ドル安リアル高)に起因する輸入製品の驚異的な拡大。正規輸入だけでなく、密輸も増大。
 - 原油、穀物相場の高騰に起因する綿作の減少懸念。
 - 電気代、労務費を始めとするコスト増。

纖維部会

終

